

一般社団法人日本熱帯医学会  
2026年度第1回理事会議事録

開催日時：2025年11月28日（金）14:00-17:00

開催場所：長崎大学医学部 グローバルヘルス総合研究棟 5階 中会議室  
（オンラインも同時開催）

出席理事：（現地出席）石上盛敏、金子修、金子聰、小林潤、齊藤（小畑）麻理子、樋泉道子、中村（内山）ふくみ、橋爪真弘、濱野真二郎、Moi Meng Ling、安田二郎、山城哲、吉田レイメント  
（オンライン出席）氏家無限、河津信一郎 [15名]

出席監事：皆川昇 [1名]

欠席理事：吉田栄人[1名]

欠席監事：嘉糠洋陸[1名]

オブザーバー：（オンライン出席）春木宏介（次期大会長）

事務局員：山下理加

（50音順・敬称略）

理事会構成員16名の内、15名の理事および監事1名の出席を得て理事会が成立したことを確認し、理事長を議長として議事を進行した。

【報告事項】

(1) 2025年度事業報告

- ・ 河津庶務担当理事より、2024年10月から2025年9月までに実施した事業が報告された。

(2) 2025年度庶務・編集報告

- ・ 河津庶務担当理事より、2025年11月23日現在の会員数は、802名と報告された。（特別会員7名、名誉会員22名、功労会員38名、評議員83名、正会員305名、ポスドク会員13名、学生会員203名（内J-Trops95名）、在外会員131名、）賛助会員1団体。男女比は、性別不明者19名を除いた対象者784人中、女性263人（33.5%）、男性521人（66.4%）であり、また40歳以下の割合は784人中305人（38.9%）であると報告された。
- ・ 橋爪編集担当理事より、会誌（Tropical Medicine and Health誌）の発行状況及び投稿状況に関して、以下の内容が報告された。

- ① Science Citation Index（SCI）に収録対象誌になったことで投稿数が増加し、加えて会員からの投稿増加が寄与して、採択率が上昇したと考えられる。
- ② インパクトファクターは、昨年の3.6から3.5へと低下したが、同分野のジャーナルランキングでは2024年も2位を維持している。

- ③ 投稿数は 2025 年 11 月 10 日現在で 637 編、掲載数は 159 編、Article Processing Charge (APC)学会補助は 46 件であり、その内訳は日本熱帯医学会 31 編、日本国際保健医療学会 15 編である。
- ④ 2026 年については、現在のような APC 学会補助による支援の継続は困難であると見込まれる。そのため、以下の提案があった。
- ・ 利用回数を制限する。(同一著者年 1 回限り)
  - ・ 補助対象を原著論文のみに限定する。
    - これに対し、複数の理事から、補助対象の限定は困難であるとの意見が示された。
  - ・ 論文 1 本あたりの学会補助額を 11 万円から 8 万円に減額し、その分補助件数を増やすことが承認された。
  - ・ 責任著者の所属が低中所得国の場合、APC 免除制度 (BMC 基金) を周知する。
  - ・ 学会補助総額を増額することが承認された (2025 年度の 50 万円から 2026 年度は 100 万円に引き上げる)。
  - ・ 「日本国際保健医療学会会員向け TMH 誌 APC 補助申請チェックリストについて(案)」に対し、日本熱帯医学会では、【対象論文】f:「対象者所属機関内及び所属機関外から、対象論文の研究において APC 支出が可能な研究資金がなく、対象論文の中でも研究をサポートする資金が明示されていないこと。」を削除することが承認された。
- ⑤ 2025 年 12 月で BioMed Central との契約が終了するため、2026 年～2030 年の 5 年間については新規契約の手続きを進めている。2026 年からの新規契約では、編集者への謝金は APC 補助を受けていない掲載論文数に応じてロイヤリティが発生する予定である。
- ⑥ Best Paper Award 2025 の選出について報告された。(Enhancing child dietary diversity through cooking demonstration and nutritional education in rural Lao PDR. Yu Sato, Somboun Khamphithoun, Khamphanavanh Saiyachak, Hisao Ando, Takaaki Ishizuka, Shinjiro Saeki, Miki Miyoshi, *Trop Med Health*. 2024; 52(8))

### (3) 第 66 回大会準備状況報告

- ・ 吉田レイミント大会長より、本年度大会の準備状況について報告された。参加登録者数は 258 名で、そのうち非会員は約 80 名であった。内訳はシンポジウム 18 件、一般口演 1 件、一般ポスター 92 件である。

### (4) 第 67 回大会準備状況報告

- ・ 春木宏介次期大会長より、2026 年 11 月 27 日～29 日に埼玉県さいたま市 (大宮ソニックシティ) で、第 67 回日本熱帯医学会大会を開催することが報告された。
- ・ テーマ：分かち合う価値 持続可能な地球の未来へ

### (5) 各委員会からの報告

- ・ 日本医学会：山城評議員より、日本医学会連合 2025 年度定時総会の報告と、令和 7 年度未承認薬等迅速解消促進調査事業「ドラッグ・ロスの解消に向けた実態の把握及び情報の整理に関する調査事業」に関するアンケート依頼が報告された。
- ・ 用語委員会：吉川委員長に代わり中村 (内山) 用語代委員より、2024 年度日本医学会分科会用語委員会の報告がされた。また、ICD-11 (2023 年 1 月版) 和訳作業について、日

本医学会分科会・用語委員会では、厚生労働省国際分類情報管理室の依頼を受け 2018 年から ICD-11 の和訳に対応していること、日本熱帯医学会・用語委員も和訳案とその確認作業に参加しており、2025 年 11 月 8 日現在、和訳案（ICD-11 の 2023 年版 26 章、V 章、X 章の索引用語）について 2 回目の確認作業に対応し、3 回目の作業依頼についても対応中であることが報告された。

- ・ 史資料委員会：市川委員長に代わり山城理事長より、感染症アーカイブズの website (<https://aidh.jp/>) を通じて、歴史的資料の公開を順次進めていることが報告された。金子修理事より、報告のあった外部資金のうち、1 年以上経過したものについて、活動報告書に適切に記載し、説明を加えるよう要望があった。
- ・ ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会：樋泉委員長より、男女共同参画学協会連絡会第 23 期第 3 回運営委員会への参加、ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会の開催（2025 年 11 月 20 日）、および年次大会における本委員会主催企画の開催予定について報告された。
- ・ 国際委員会：皆川委員長より、狩野委員が英国 Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene (RSTMH) Annual Meeting（2025 年 9 月 25 日～26 日）およびカナダ American Society of Tropical Medicine and Hygiene (ASTMH) Annual Meeting（2025 年 11 月 9 日～13 日）に出席したことが報告された。また、狩野委員は、タイで開催される Joint International Tropical Medicine Meeting (JITMM) 2025（2025 年 12 月 2 日～4 日）に出席予定であることも報告された。  
さらに、タイで開催される 20th Congress of International Society of Travel Medicine (CISTM20)（2027 年 5 月 2 日～5 日）およびインドで開催される Regional Meeting of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene (RSTMH)（2027 年 2 月 27 日）について、狩野委員が日本を代表して運営委員として準備を進めていることが報告された。  
加えて、英国リバプールで開催される International Congress of Tropical Medicine and Malaria (ICTMM 2028)（2028 年 9 月 6 日～10 日）の閉会式において、狩野委員が ICTMM の President に就任予定であること、および ICTMM 2032 の日本招致を検討中であることが報告された。
- ・ 広報・情報委員会：石上委員長より、2024 年 11 月にリニューアルした当学会ウェブサイトに「熱帯医学アーカイブ」のページを新設し、長崎大学熱帯医学研究所の吉岡浩太先生によるシャーガス病の記事を掲載したことが報告された。  
また、日本熱帯医学会学生部会 J-Trops のメンバーが中心となり学会員を訪問してインタビュー記事を作成していること、および今後も会員の活動紹介を拡充していく方針について報告された。
- ・ 金子修理事より、学会バンクの理事選挙について、オンラインシステムに対応した選挙制度の検討が提案された。  
石上委員長より、現状では地方区の区分が学会バンクの区分と異なるためオンラインシステムに対応できないこと、追加コメントや新たな設定ができないことについて説明があった。

山城理事長より、理事選挙制度について、理事および会員から多くの意見を収集し、より効率的な選挙体制とするため、理事選挙細則の改正を今年度中に検討・整理するとの提案があった。

(6) 科学研究費補助金（国際情報発信強化 B）について

- ・ 科研費事務担当の有吉先生に代わり山城理事長より、2025年度の交付申請書の説明があった。
- ・ 2025年度も、TMH誌の投稿論文のAPC学会補助や取材旅費などに使用する予定であることが報告された。
- ・ 2025年度が最終年度となることから、次回の科研費助成を受けられるよう検討するべきとの意見が、複数の理事から出された。

山城理事長より、次回の科研費申請にあたり、Eラーニングや教育リソース開発について、現状のホームページ記事やレクチャーなどを活用する方向で検討し、実現可能性を検討する予定であることが報告された。

(7) 学生部会活動報告

- ・ 山城学生部会担当理事より、2025年6月から11月の学生部会（J-Trops）の活動、および東京夏合宿2025（2025年8月24日～26日 JIHS 国立国際医療研究所、JIHS 国立感染症研究所、JIHS 国際医療協力局、JIHS 国際感染症センター、東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻）について報告された。

また、日本熱帯医学会会員および非会員から募った協賛金14万円と特別会計43,616円を用いて、参加学生13名のうち東京在住者2名を除く11名の宿泊費183,616円を支出したことも報告された。

(8) 商標登録出願について

山城理事長より、「一般社団法人日本熱帯医学会」および図形商標の2件の商標について、商標登録出願が完了していることが報告された。

(9) その他

- ・ 血清赤痢アメーバ抗体検査薬の適正使用(4学会連名でのステートメント発出について)：山城理事長より、日本寄生虫学会、日本感染症学会、日本エイズ学会と連盟でステートメントを発出したことが報告された。
- ・ メファキン「ヒサミツ」錠275の継続供給について：山城理事長から、厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課へ要望書を提出したことが報告された。

【審議事項】

(10) 2026年度事業計画・予算案の承認

- ・ 山城理事長より、2026年度事業計画が提案され、承認された。
- ・ 2026年度事業計画に、「理事選挙方法の改正の検討を進める」を追加することとした。
- ・ 預貯金の残高が少ない特別会計については、書面会議を実施することとした。

(11) 2025年度決算および監査の承認

- ・ 齊藤(小畑)会計担当理事より、2025年度決算について報告があり、承認された。

- ・ 齊藤(小畑)会計担当理事より、2026 年度予算案が提案された。  
BMC の APC 費について、予算案の 100 万円に対し、BMC からの編集謝金約 50 万円を含め 150 万円への増額が承認された。
  - ・ 皆川監事より、2025 年度会計監査が適正であることが報告され、承認された。
- (12) 入会者承認と退会者の報告、学生部会入会者の承認
- ・ 84 名の入会が承認された。また、退会者 5 名についても報告があった。
  - ・ 学生部会への 9 名の入会が承認された。
- (13) 新評議員の選出
- ・ 推薦のあった評議員候補者 7 名（稲岡ダニエル健氏、井上真吾氏、今村大輔氏、後藤康之氏、高松由基氏、田中健之氏、見市文香氏）について、承認された。
  - ・ 金子修理事より、「評議員候補者推薦届」について、候補者の指導的立場を具体的に明記すべきとの指摘があり、同書類の雛形の見直すこととなった。
- (14) International Congress of Tropical Medicine and Malaria (ICTMM2032) を日本に誘致する試みについて：山城理事長より、23<sup>rd</sup>ICTMM2032 招致ワーキンググループの議事録および進捗について周知した上で、学会が主導して 2028 年リバプールで、日本での開催誘致を行うことが承認された。
- 具体的な開催地や運営体制の詳細については決定されず、今後の準備委員会で検討することとなった。
- (15) その他
- ・ 男女共同参画学協会連絡会「役員選出学協会」引受に関する対応について：樋泉委員長に代わり山城理事長より、第 28 期および第 29 期～第 32 期については引き受けない旨を学会として回答することが承認された。
  - ・ 利益相反委員会の委員長について：山城理事長より、飯島渉氏が候補者として推薦され、承認された。
  - ・ 特別会計 賞金について：齊藤(小畑)会計理事より、資金不足問題に対し、一般会計から特別会計に 100 万円を移すことが承認された。改めて各賞の取り決めを確認し、報告することとなった。
  - ・ 第 68 回大会について：山城理事長より、金沢大学の所正治氏が大会長に承認された。河津理事より、第 68 回大会は 2027 年 11 月 19 日（金）～20 日（土）金沢商工会議所にて開催予定であると報告された。  
第 69 回大会以降の開催予定について、小林理事より、他学会との開催時期が重複しないよう、日程調整の依頼があった。

以上の議事を終え、17 時に閉会した。上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名人がこれに記名押印する。

|                  |   |   |       |   |
|------------------|---|---|-------|---|
| 2025 年 11 月 28 日 | 議 | 長 | 山城 哲  | Ⓔ |
|                  | 監 | 事 | 嘉糠 洋陸 | Ⓔ |
|                  | 監 | 事 | 皆川 昇  | Ⓔ |